

研究部だより

令和5年
12月1日(木)発行
第6号
文責：宮崎、加藤

今回の研究部便りは、中学部と小学部の実践を紹介します。

ICT を活用した授業実践⑦

中学部 3年 生活科 単元名『好きな給食』

題材名「自分の好きなものを伝えよう」

授業者

MT 鈴木 優真
ST 池見 こそえ

対象生徒の様子

- ・本授業の対象生徒は簡単な言葉掛けに応じて、発声でのコミュニケーションが難しいが簡単な手ぶりや身振りで自分の意思を伝えることができる生徒である。
- ・学校では指示待ちの様子が多く、自らの意志で行動に移すことが少ない。
- ・給食時に、早く食べてしまう傾向があり、教師と一緒に次に食べるものを選んでから食べるようにしている。

ICT 活用の意図

- ・本生徒が発声でのコミュニケーションが難しいため、自分の要求や嫌なことを相手に伝えることのできないストレスを感じている。
- ・アプリケーションソフト・「えこみゅ」を使うことで、要求や嫌な思いをしたことが正確に相手に伝わることを感じ、様々な人とコミュニケーションをとってほしいという願いがある。

ICT 活用の成果

- ・アプリに最初に慣れてもらうために、生徒が最も親しみがあり、サインもある「トイレ」を導入に使用した。トイレに行く際にこの絵カードを押すことで自分の欲求が相手に伝わることを学習してもらった。
- ・次に生徒の身近な持ち物の写真を使って具体的なカードを作成し、カードと具体物のマッチングを行ったうえで、欲しいものを相手に伝えることができた。
例「穴あけパンチ」と「ください」のカードを選択→本人が何が欲しいのかを教師に伝えることができた。
- ・給食時には教師と選ぶ時の判断材料として活用した。
例「おいしい」と「スープ」のカードを選択→本人の気持ちを教師が理解し、共感することができた。

その他

- ・活用したアプリ「えこみゅ」



気持ちを伝えるカードアプリケーション。カメラ機能を使ってオリジナルカードを作ることもできます。日常で使える200種類のカード全てに音声が付いており、広告表示がないので安心して使えるアプリケーションの一つです。

ICT を活用した授業実践⑧

小学部 3, 4年 音楽科 単元名「きれいな声で」 題材名「ガレージバンド(音楽づくり)」

授業者

MT 佐伯

ST 小3, 4年1, 2, 3組教員

対象生徒の様子

- ・4年生はiPadの簡単な操作を理解している児童も多いが、一部マンツーマンでの支援が必要である。
- ・3年生は前年度カメラ機能の使用にとどまっている児童がほとんどである。
- ・家庭では余暇の一環としてタブレット端末を使用している児童が多い。
- ・興味のあるところを触ってしまう、説明を聞かずに誤操作につながってしまうことで、学習が進まないことがある。

ICT活用の意図

- ・アプリケーションソフト・ガレージバンドを使用することで、楽器ができなくても「人差し指1本」で、楽しく、自由に音楽を作り出せる。
- ・自分が作った曲を発表したり、友達が作った曲を鑑賞し、共有したりすることが対話的な学びにつながる。
- ・児童が自由にタブレット端末に触れるなかで、音を作り出す楽しさを感じられる。

ICT活用の成果

- ・「人差し指1本で音楽が作れる」ということは、実態差の大きい学習集団において、全員が参加できるという点で、大変有効であった。参加ができて、初めて理解ができ、習得ができる。また、指で端末に触れることで、自然と音楽が生み出されることを楽しんでいる児童が多い中、自分の中にあるイメージを音楽として表現しているように見受けられる児童もいた。
- ・今回は一人でメロディーと伴奏を作ったが、グループで、様々な楽器を使って友達と一緒に音楽作りの活動することも有意義である。児童の主体的な活動を保障しつつ、児童の音楽づくりをより豊かなものにするために、指導者がガレージバンドの使い方に精通する必要がある。
- ・学習発表会で作った曲をBGMとして活用することで、友達同士認め合い、〇〇さんの曲がかかったら行く、作曲した友達にグッジョブサインを出すなど曲についてやりとりをする姿が後日見られていた。

その他

- ・活用アプリ「ガレージバンド」について

画面に触って演奏するので、Touch Instrumental と呼びます。

※楽器に慣れていなくても演奏できるように、目で見ても分かる工夫がたくさんあるアプリケーションソフトです。ピアノやオルガンなどの音源が入ったキーボード、ドラム、アコースティックやエレキも用意されたギター、バイオリンなどのストリングス、琵琶や琴などのワールドがあります。

